

学校運営協議会の評価(学校関係者評価)

児童・生徒及び保護者が行った学校・授業評価をもとにした学校による自己評価について、第2回学校運営協議会(12月15日)を受け以下のように評価しました。

1 学びづくりへの評価について

- ・学びづくりは、OBの評価もあるとよいと思う。卒業した子の声を聞けるといい。
- ・教科によって「問い」が良かったり、児童生徒の自主的な姿が見えたりと対話が深まっている姿がある。
- ・わからないと言えばよしではないと思う。わかりたいことをわかるようにすることが大事。わからないと言えることで完結していいのか。
- ・わからないことをわからないと言えない子どもが多い。自分の印象だと遠慮してしまうお子さんもいるのではないかと思う。
- ・対話は、じっくりと者えてから考えを言える子とすぐに考えを言える子がいる。そこを見極めて授業をしていくことが大切。
- ・対話を通してわからない子が助けられるように教師の見守りも大切。それだけではなく、子どもたち同士で助け合えるようになるといい。
- ・協働の学びで「輪」の形の授業のところがある。協働の学びは、学力の差があるからできないのではない。思考過程が大事という発想がないことに問題を感じる。
- ・地域の関わってくれている方も、協働の学びのあり方を理解してくれている。地域の方の関わりが美麻の子を育てている。
- ・子どもたちは他の人の意見や声を聞き合えることを好意的に受け止めていることが学校評価から読み取れる。しかし、保護者の視点で回答を見ると、1の「そう思う」の回答がすべてマイナスになっている。参観しても授業が見れない。見てないから評価できない。1をつけられない理由につながっているのでは。保護者が協働的な学びをしている授業を見られるようになるといい。

2 体づくりへの評価について

- ・基礎的な体力をつけていくことは大切。
- ・卒業後も学び続けるエネルギーの種をまくことが義務教育の命ではないか。
- ・この評価の保護者の評価が安定して高い。満足度が高いようだ。
- ・にこにこ表情よく活動している様子がよい。楽しんで体を動かしている。
- ・以前よりも元気アップが嫌いだという子が減っている。取り組みの「意味」を児童生徒が分かっている。活動の意味付けが位置づいてきている。
- ・達成感を持たせられると向上心につながっていくだろう。
- ・元気アップの内容を自分たちで考えられることもうれしいようだ。元気アップを楽しくやっている。
- ・色々な工夫をしているから、動かすことに楽しさを感じるお子さんが増えてきた。
- ・体を動かすことに対する良さを感じられるような活動をさらに増やしていくといいのではないか。
- ・スポーツをやらないインドア派のお子さんはどうするのか?年齢が上がるにつれ二分化されていく。
- ・体力が落ちているようには思わない。でも楽しいだけではいけない。厳しさも必要だと感じる。もう少しハードなことも中学生あたりにやらせてもよいのではないか。

3 集団作りへの評価について

- ・文化祭で臨機応変に対応する子どもたちのコミュニケーションを見た。まるで大人のようなやりとりですごいと思った。
- ・市民科で8年、9年に関わっていると、これで大丈夫なの?と思うところがあるが、外で大人とそれなりの自分の意見を言ってみたりとかしているので、力がついている。
- ・以前に比べ、特性のある子たちも発言したり、リーダーとして引っ張ったりする姿が見られるように感じる。
- ・9年生のリーダーとしての伸びを感じる。今日のような夢の時間で、6年生のリーダーが困っている時は、上級生がリーダーシップをとるなどしてフォローする姿があるとよい。
- ・リーダーに対してフォロアーは何人いるのか。
- ・少しの時間でできる成功体験「対話をすればいいことがあった」を積みせるといいのではないか。

美麻学校運営協議会長

北沢 孝一